



しゅうぶん

秋分（22日）… 暑さ寒さも彼岸までと言いますが …

例年のない厳しい残暑も、4連休を境にようやく収まり、秋の空気に入れ替わったように感じます。草むらの虫の音を聞き、空を見上げて、身近な自然の小さな移り変わりを感じ取れるようになると、日々の生活が豊かになっていくものです。まさに、日々是好日です。

<蟄虫坏戸 むしかくれてとをふさぐ 9月28日～10月2日>

秋分の次候は「蟄虫坏戸」です。3月初め、冬眠していた虫が地面から出てくる頃が、二十四節気の「啓蟄」、七十二候の初候では「蟄虫啓戸（すごもりむし とをひらく）」の季節です。そして、気温が下がって秋の訪れを実感する頃、春から夏にかけて活発に動いていた虫たちも、巣ごもりの支度を始める季節ということでしょう。

<お月見こども会>

この小さなコラムで、青南幼稚園は豊かな自然に恵まれていることをお伝えし続けています。そして、日本の伝統行事は、人と自然の営みが密接に関わるものばかりです。青南幼稚園のこども会は、その自然に対する畏敬の念をもち、感性を豊かにすることを目的にした行事です。30日は、秋の草花や木の実と月見団子などを飾り、自然の恵みに感謝するお月見こども会でした。

<ピアノとコントラバスのすてきな演奏>

お楽しみは、地域にお住まいの音楽家の勝山さんとお仲間の小野澤さんによるハッピーコンサートでした。会場に入る全員がマスクを付け、窓を開け、時間を短縮して学年ごとに3回の公演をお願いしました。お二人は大変だったと思いますが、お陰様で、子どもたちはすてきな音楽を楽しむことができました。姿勢よく座って、静かに聴く約束を守ることができて、勝山さんから「さすが、青南幼稚園の子どもたちは立派ですね！」とたくさん褒めていただきました。

<まさにハッピーな時間でした>

コントラバスはとても大きな楽器で、子どもが隣に並んで背比べをすると2倍もある大きさでした。その名前や音色も子どもたちは初めて聴くものでしたが、重低音を響かせた象にちなんだ曲のクイズでは、年長児はすぐに答えを当てていました。弾むようなピアノと重厚なコントラバスの演奏に合わせて手拍子を打ったり、体が自然に動いたりする子もたくさんいて、とても豊かで幸せな時間を過ごすことができました。同時に、子どもたちを見守り育てくださる地域の方々に、改めて感謝の気持ちを実感する日でもありました。



勝山さん(右)と小野澤さん(左)



音楽に合わせて手拍子する曲も

秋の草花(菊、キキョウ、ススキなど)や栗やどんぐりなどの木の实、月見団子も飾りました。

夕方、3階のベランダに登ってみると、六本木ヒルズと東京タワーの向こうにまん丸い中秋の名月を拝むことができました。秋の実りはもちろん、改めていろいろなことに感謝したい気持ちになりました。

